

◆◆精神看護学実習

目的

精神に障害をもつ人を理解し、障害の状況にあわせた看護ができる基礎的能力を養い、保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解できる。

目標

- 1 精神に障害をもち入院している人の治療的環境と看護師の役割を理解できる。
- 2 精神に障害をもち入院している人を理解し、必要な援助を実践できる。
- 3 精神に障害をもち地域で生活している人に必要な支援を理解できる。
- 4 精神に障害をもつ人との関わりを通して、自己の内面の変化に気づき自己洞察ができる。

実践活動外学習

実習内訳

科 目		単 位（時間）
精神看護学実習	臨地実習	（ 8 0 時間）
	実践活動外学習	（ 1 0 時間）
合計		2 単位（ 9 0 時間）

目 的	内 容	時間数
1 実践活動をイメージし、実習目標達成に必要な準備を整える。	(1) 実習病棟の概要、設備構造と安全管理 (2) 指導体制、留意事項 (3) 学習内容と進め方 (4) 情報共有の意義	2 時間
2 実習目標達成に向けた到達状況を査定し、より質の高い実践活動にむけて取り組む。	(1) 受け持ち患者の看護の振り返り、意見交換 (2) 受け持ち患者の看護実践を振り返り、看護の方向性を再確認し、アセスメントや計画の追加・修正 (3) 集団精神療法の必要性に関する意見交換 (4) 学生レクリエーションの企画、準備、実施に関する評価 (5) 実習を振り返り、グループ間で学びを共有 ○患者・看護師間の関係性構築におけるコミュニケーションについて意見交換（傾聴・共感・受容、距離感・・・） ○精神科看護におけるリスクマネジメントについて意見交換（閉鎖病棟、保護室、転倒リスク、誤嚥リスク、離院・離棟、暴力・・・）	8 時間

精神看護学実習（精神に障害をもち入院している人の看護）

行動目標	実習内容	実習方法
<p>1 精神科病棟の治療的環境を述べられる。</p>	<p>1) 精神科病棟の特徴 (1) 病棟の構造 (2) 保護室の環境 (3) 作業療法室の設備 (4) 鍵の管理 (5) 災害時の対応 2) 入院形態 3) リスクマネジメント (1) 転倒・転落 (2) 誤嚥・窒息 (3) 誤薬 (4) 離院 (5) 自殺・自殺企図 (6) 暴力・暴力予防 (CVPPP) (7) 喫煙等による火傷・火事 4) 処遇 (1) 隔離・拘束 (2) 通信・面会 (3) 外出・外泊 5) 代理行為 (1) 私物の管理(金銭・煙草・おやつ等) (2) 日用品の購入 6) 医療保健福祉チームの連携</p>	<p>1 -1)2)3)4)5) (1) 病棟へは、インターホンでコールをして入る。 (2) 病棟の日課に沿って実習をする (3) 実習1日目に病棟オリエンテーションを受ける。 (4) 鍵の管理 ・松沢病院：カードキーの管理を確実にやる。 ・広尾病院：鍵の開閉は病棟スタッフに依頼する。 (5) 病棟カンファレンスに参加して行動制限最小化について学ぶ。 (精神保健福祉法について一事前学習を活用する)</p>
<p>2 患者—看護師関係の成立発展について述べられる。</p>	<p>1) 看護師の役割 (1) 日常生活の援助者 (2) 相談者 (3) ロールモデル (4) 家族への援助 (5) 環境調整 (6) 病棟運営 (7) 医療チーム間の調整 2) 患者—看護師関係の展開</p>	<p>2 -1)2) 3 -1)～5) (1) デイルーム・食堂などで、受け持ち患者や、受け持ち以外の患者との関わりを通して学ぶ。</p>
<p>3 患者を尊重し適切なコミュニケーションをとることができる。</p>	<p>1) 傾聴・共感・受容 (1) 患者に関心を寄せる (2) 患者の言動をあるがままに受け止める (3) 患者の言動の意味を考える 2) 患者の尊重 (1) 人権への配慮 (2) 自己決定の尊重 3) 非言語的コミュニケーションの活用 4) 患者との距離のとり方 5) 精神症状の観察と対応 (1) 幻覚妄想状態 (2) 不安緊張状態 (3) 抑うつ状態 (4) 躁状態 (5) 無為自閉 (6) 睡眠障害 (7) 拒絶症状 (8) 強迫症状 (9) 攻撃的行動 (10) 操作・試し行為 (11) 昏迷 など</p>	<p>(2) スタッフの関わり方や、病棟カンファレンスなどに参加し学ぶ。</p>

行動目標	実習内容	実習方法
4 受け持ち患者・家族の状況及び必要な援助をアセスメントできる。	1) 生育歴・生活歴・現病歴・家族歴の把握 2) 精神症状と、そのことが日常生活行動や身体に及ぼす影響 3) 病識・現在の状況の受け止め・将来への希望 4) 受けている治療・看護 5) 一日の過ごし方 6) セルフケア査定 7) 患者に必要な日常生活の援助 8) 患者の希望・今後の可能性(ストレングス) 9) 家族の患者の受け止め方、サポート体制	4 -1)～8) (1) 受け持ち患者について 実習 1 日目に指導者の助言をもとに受け持ち患者を決定する。 (2) 日々の援助の結果を次の計画にいかし、援助を実施する。 (3) 機会があれば医師より臨床講義を受ける。
5 受け持ち患者に必要な援助を実践できる。	1) セルフケアの維持・向上に向けた援助 (1) 空気・水・食物 (2) 排泄 (3) 体温と個人衛生 (4) 活動と休息 (5) 孤独とつきあい (6) 安全を保つ能力 2) 患者のできる力・強みを生かした援助 3) 治療と援助 (1) 薬物療法 ① 与薬方法・留意点 ② 副作用の観察 ③ 服薬自己管理指導 (2) 通電療法 ① 無けいれん電気療法 (m-ECT) (3) レクリエーション療法 (4) 作業療法 4) 退院に向けた援助 (1) 必要な退院後の生活支援 (2) 活用できる社会資源 (3) 可能な社会参加の形 (4) 多職種との連携	5 -3) (1) 診療の補助技術「経口与薬」を実施できるように、学習状況を整える。 (2) m-ECTの見学は、機会があれば、患者・家族の承諾を得て事前学習の基に行う。 (3) 学生主催のレクリエーション ○病棟の特徴や対象に合わせた内容を考え企画書を提出し助言を受ける。 ○企画書に基づきレクリエーションを実施し評価する。 ○レクリエーションの準備から、患者と交流をはかる。
6 再構成を通して自己洞察できる。	1) 場面の選択 (1) 患者との出会いや関わりの中で、異和感や気になった場面等を選択する。 2) 考察 (1) 患者の言動の理解を深める (2) 自己の感情、思考の傾向に気づく (3) 患者への関わり方を考える	6-1)2) (1) 一週目、出会いの 1 場面を取り上げ再構成し、教員に提出する。 (2) 二週目、受け持ち患者との関わり方の 1 場面を取り上げ再構成し、火曜日に指導者に提出する。 ◎カンファレンス (日々・最終) で学びを共有する。 ◎実践活動外時間を活用してグループ間で情報交換をする。

精神看護学実習（精神に障害をもち地域で生活している人の看護）

行動目標	実習内容	実習方法
<p>1 事業所の役割・機能が述べられる。</p> <p>2 利用者の特徴を述べられる。</p> <p>3 利用者への関わり方を述べられる。</p> <p>4 地域で生活している人のサポートシステムと課題が述べられる。</p>	<p>1) 事業所の目的・運営</p> <p>2) 作業内容</p> <p>3) 一日の流れ・週間予定</p> <p>4) 職員の役割</p> <p>5) 多職種、他施設との連携</p> <p>6) 地域との関わり</p> <p>1) 利用者の利用目的・就労や将来への展望など</p> <p>2) 利用者の作業への取り組み状況</p> <p>3) 職員や他のメンバーとのコミュニケーションの取り方</p> <p>4) 生活する上で困っていること</p> <p>(1) 精神症状、病識</p> <p>(2) 受診、服薬の状況</p> <p>(3) 家族や地域住民との関係</p> <p>(4) セルフケア</p> <p>(5) 経済状況</p> <p>1) 職員の利用者への関わり方</p> <p>(1) 作業訓練 調理・菓子製作、販売 自主製作 清掃 リサイクル バザー など</p> <p>(2) 生活の支援</p> <p>(3) 仲間づくりへの支援 旅行 スポーツ大会</p> <p>(4) 家族会</p> <p>2) 利用者間の関わり</p> <p>3) 自分の関わりと利用者の反応</p> <p>1) 利用者が活用している社会資源</p> <p>(1) グループホーム</p> <p>(2) 精神科デイケア</p> <p>(3) セルフヘルプグループ</p> <p>(4) 生活支援センター</p> <p>(5) 訪問看護 など</p> <p>2) 地域で生活する人の生活環境</p> <p>3) サポートシステム</p> <p>4) 精神保健医療福祉の課題</p>	<p><6ヵ所の施設において少人数に分かれて2日間、実習する></p> <p>1~4</p> <p>(1) 実習1日目に施設オリエンテーションを受ける。(カンファレンスで確認する場合もあり)</p> <p>(2) 職員の指導のもとに、事業所のプログラムに参加しながら利用者と交流する。</p> <p>*施設外活動の場合は、事前に報告・連絡・相談する。</p> <p>(3) 機会があれば行事に参加する。その際の費用は、学生負担とする。</p> <p>(4) 精神障害者に関する文献、障害者総合支援法等の事前学習をカンファレンスで活用する。</p> <p>(5) 毎日のカンファレンスを通し、利用者を取り巻くチームメンバー間の連携と社会資源の活用について学ぶ。</p> <p><実習最終日のカンファレンス></p> <p>テーマ： 例：「利用者の自立への支援について」 他</p> <p>障害者総合支援法における福祉サービスについて参考にする。</p> <p><行動計画表について></p> <p>(1) 日々の行動計画表は実習当日の朝、指導者に提出し助言を受ける。</p> <p>(2) 可能な限り実習時間の中で結果・評価を記載後、指導者に提出する。</p> <p>(3) 指導者からその都度の助言やコメント欄に記載されたことをふまえ、翌日の利用者との関わりに活用する。</p>